

伝染性胃腸炎ウイルス 不活化試験結果の概要

*** 不活化とは、ウイルスが死滅することです。***

- [試験機関] (株)食環境衛生研究所
- [試験資材] オキシリンク-S P (1,000・5,000・10,000倍希釈)
 ≡ オキシリンクSPスプレー 換算濃度：(60%・12%・6%)
- [試験対象] 豚伝染性胃腸炎ウイルス(TGEV)：
 3,200,000,000,000株 (株 = 個数)
- [試験内容] 試験資材が試験対象に及ぼす不活化効果の検証 (計測：開始後1分)
 試験①：1,000倍希釈、試験②：5,000倍希釈、試験③：10,000倍希釈
- [試験開始] 2013.02.04
- [試験終了] 2013.07.31 (試験機関による報告書作成日)

*** 菌やウイルスの死滅表現：菌 → “死滅”、ウイルス → “不活化” ***

【試験①】 右 グラフ図

≡ オキシリンクSPスプレー：60%濃度
 この濃度で 不活化率 99.99%以上

【試験②】 下段左 グラフ図

≡ オキシリンクSPスプレー：12%濃度
 この濃度で 不活化率 99.99%以上

【試験③】 下段右 グラフ図

≡ オキシリンクSPスプレー：6%濃度
 この濃度で 不活化率 99.99%以上

[所見] オキシリンクSPスプレーは本来は薄めずに(100%のまま)使用するものですが、上記何れの濃度に薄めても、試験開始後1分での除菌率は99.99%以上を示します。

